運動部活動
指導者研修資料

令和４年1月

京都府中学校体育連盟　京都府高等学校体育連盟

はじめに

京都府中学校体育連盟と京都府高等学校体育連盟は、本府中学校・高等学校の運動部活動指導者の資質向上を図るため、日頃の指導実践及び科学的研究成果の発表等を通じて、当面する諸問題について情報を交換し、運動部活動の振興発展に資することを主旨として、平成６年度より形を変えながら、「運動部活動指導者研修会」を開催してまいりました。

令和２年度及び３年度については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、同研修会の開催を中止いたしました。しかしながら、このような状況においても、スポーツや部活動を取り巻く環境は刻々と変化しており、指導者は常に学び続けることが求められます。

本冊子は、２年連続の中止となった同研修会の主旨を踏まえ、京都府中学校体育連盟と京都府高等学校体育連盟の協働により、公益財団法人京都府スポーツ協会の支援をいただいて、作成いたしました。指導者の資質向上の一助として、御活用いただきますようお願いいたします。

令和４年１月
京都府中学校体育連盟
京都府高等学校体育連盟

CONTENTS

目　次

1. 中体連実践発表 P3

京都市立洛北中学校 中体連調査研究部　岸 本 卓 也 教諭

2. 高体連実践発表 P9

京都府立須知高等学校 女子ホッケー部　髙 橋 祥 子 教諭

3. 関連リンク集 P17

4. 中体連統計資料 P27

5. 高体連統計資料 P37

1

中体連実践発表

運動部活動における健康安全管理の取組について

～望ましい運動部活動を目指して～

京都市立洛北中学校
中体連調査研究部
岸　本　卓　也

〈 提 案 趣 旨 〉

京都府中学校体育連盟では、部活動における生徒のけが等を予防するため、「指導者がどのような指導をしていけば良いのか」をテーマに研究を進めてきた。また、望ましい運動部活動の在り方について検討を進める中で、運動部活動時のけがを減少させることを目的とし、京都府内全域に、ウォーミングアップ及びクーリングダウンの実態調査や資料の提示を通して、指導者の意識の向上を図った。

本調査結果から、運動部活動における健康安全管理の実態を共有するとともに、これまで行ってきた健康安全や競技力向上のための取組を紹介させていただきたい。

1 はじめに

京都府中学校体育連盟は京都市、山城、口丹波、中丹、丹後の５ブロックから構成されており、現在加盟校は195校である。（京都市立72校、市町（組合）立92校、私立24校、国立２校、府立５校）

2 研究部調査報告

⑴ アンケート調査

〈調査時期〉

- 令和２年10月（１回目）
- 令和３年５月（２回目）

〈調査対象〉

全加盟校（各校から１名の運動部活動顧問が回答）

〈調査内容〉

部活動におけるウォーミングアップ及びクーリングダウンの実態について

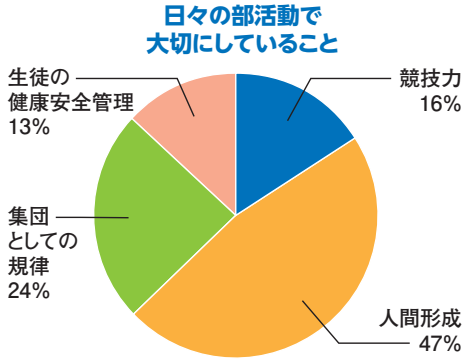


図1

※ウォーミングアップは、主運動前に行う体を温める運動、クーリングダウンは、主運動後に行う身体への負担を軽減するための運動や動きを定義したアンケート。

⑵ アンケート結果より

〈ウォーミングアップ及びクーリングダウンの実施率について〉

京都府内におけるクーリングダウンの実施については、地域により差はあるものの、京都府全体としては低い実施率となり、教員の意識に差がみられることが分かった。特にクーリングダウンの実施率が低い結果となった。（図２）

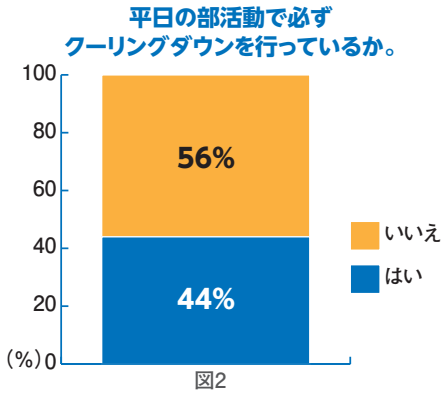


図2

考えられる要因としては、部活動を指導する顧問にクーリングダウンの重要性が浸透していないこと、また京都府に発令された新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置及び緊急事態宣言の中で、部

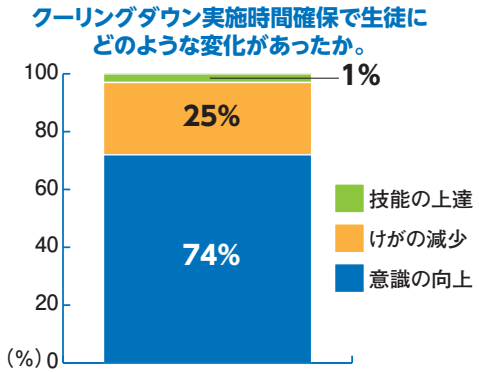


図3

活動時間が大幅に縮小したことも考えられる。

一方で「ウォーミングアップの改善を心がけることで生徒に変化があった」が67％、クーリングダウンについては、72％と高い数値であった。

特にクーリングダウンの実施を改善したことで、実際に「生徒のけがが減少した」という回答が25％であったことから、顧問がその効果をより強く実感できるものとなった。（図３）

アンケート自由記述では、ウォーミングアップ及びクーリングダウンの実施時間確保やその改善について、肯定的な意見、また逆に時間確保が難しいという意見があった。

アンケート自由記述

- 他の顧問と相談、協力することで、教員間のコミュニケーションをとり、生徒への適切な指導を行う意識が高まった。
- ウォーミングアップを行ったうえで、練習時間を最大限に確保するために、ウォーミングアップの内容や練習メニューの工夫をした。生徒がウォーミングアップの重要性や主運動への繋がりを理解し、生徒発信で準備の仕方を工夫するなど行動基準が変化した。
- 必要性を理解していても、時間の制約上必ず実施することの難しさを感じている。

〈効果的な実施方法について〉

ウォーミングアップの実施方法について、従来行われてきた「全員が集合してから一斉に実施する方法」では、実施する時間の確保は難しいという傾向があった。「実施している」の中には、参集した者から個別にウォーミングアップを開始しているという回答があった。また、必ずしもランニングやストレッチを行うだけでなく、ボールを扱った運動やラダー、サーキット、キャッチボールをウォーミングアップとして位置付けているという回答があり、主運動とも取れる内容もこの他に挙がっていた。

クーリングダウンにおいても、全員でウォーキング、体操などを行う従来の方法とは対照的に、バスケットボールのシューティングや、練習後の後片付けの荷物運びや整地などをクーリングダウンとして位置付けているという回答も見られた。

さらに、生徒に柔軟メニューを作成し、家庭でも実践できるように配布しているという回答もあった。

(3) 今回の取組を通じて

指導者の健康安全への意識向上とウォーミングアップ及びクーリングダウンの実施時間確保を引き続き啓発していきたい。

しかし、現在、京都府部活動指導指針による活動時間の減少に加えて、新型コロナウイルス感染症の影響も大きく、ウォーミン

グアップ及びクーリングダウンだけでなく、部活動そのものの時間確保が難しい状況となっている。

休日など活動時間を多く確保できる場合は、全員で取り組む従来のウォーミングアップやクーリングダウンを推奨するが、平日の、特に冬場の練習時間が十分確保されない場合は、指導者がウォーミングアップ及びクーリングダウンの目的を認識し、その効果を得ることを前提とした上で、様々な工夫を行うことが望ましいと考える。

各種目に応じたウォーミングアップやクーリングダウンの実践例を下記にて紹介する。

(4) 各種目に応じたウォーミングアップやクーリングダウンの実践例

ウォーミングアップ

○ 実践例

【バスケットボール】

基礎体力向上や下半身強化のためのフットワークとバスケットボールの動きの習得に必要な反復練習（ハンドリング等）を一つの動きとして行う。

例：ドリブルしながらラダーを行う。フットワークの動きをしながらパス練習をする。等

○ 時間短縮のポイント

準備ができた生徒から、先輩後輩関係なくウォーミングアップを始める。

クーリングダウン

○ 実践例

【陸上競技】

- 前屈×100回（ハムストリングスを含む下半身の柔軟性向上）
- 壁倒立（倒立を行うことで体のバランスを整え、血流を促進させる。）

【バドミントン】

- 1人1役片づけの役割を行い、その片付けと同時にストレッチ、軽いランニングを行う。
  ※時間短縮にもつながる。

※その他各種目の実践例は京都府中学校体育連盟ホームページに掲載しています。

〈http://www.kyoto-be.ne.jp/chutairen-kyoto/cms/〉

3 その他

(1) コーチングセミナー

京都府中学校体育連盟では、平成25年度から未経験種目の部活動を指導する顧問の指導力向上や競技力向上、セルフコンディショニングの習得を目的として、コーチングセミナーを実施してきた。

〈コーチングセミナー等の方向性〉

- 競技ごとの「基本的な練習計画」の立て方
- 発育急進期における望ましいトレーニング
- 限られた時間の中で実施できる練習方法
- スポーツ障害やケガの防止・対処法等を含めたコンディショニング講習会

⑵　各専門部の取組

【陸上競技】

- 強化合宿に専門学校（スポーツ科学科・鍼灸科）生徒を招き、選手の体のケアだけでなく、ミーティング等でセルフコンディショニングについて、選手に講義するなどの取組を行っている。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、通常の部活動が実施できない中、動画配信を活用して、自宅でできるトレーニングの紹介などを行っている。（専門部員が実践や講義を行う。）

【ソフトボール】

- 実業団チームの選手を講師として招き、指導者対象のセミナーや選手対象の強化練習を実施している。

4　今後の課題と展望

京都府中学校体育連盟では独自に進めてきた様々な取組（コーチングセミナーなど）を通して、生徒にセルフコンディショニング（自分自身で心と体をコントロールし、良い状態を保つこと）を身につけさせることで、けが等を防止する動きに繋げてきた。また、競技力の向上にも大きな影響を与え、多くの有望なアスリートの育成を果たしてきた。

一方で、本研究を受けて、運動部活動中のけが等を減少させることの必要性をさらに強く感じるとともに、その難しさも同時に感じた。生徒のけが等を減少させるためには、日々の部活動を指導する顧問が「健康安全に関する意識」をさらに高めていくことが求められる。

加えて、限られた活動時間の中でウォーミングアップ及びクーリングダウンの効果を得られるよう、指導者が様々な工夫を行うことが肝要である。その一つとして、十分な活動時間がないという課題に対し、種目ごとに行うウォーミングアップ及びクーリングダウンの具体的な実践例を参考にしていただきたい。

今後もウォーミングアップ及びクーリングダウンの実施率100％を目指して取り組む中で、子どもたちがケガなく安全に活動できる環境づくりを目指していきたい。

また、プレイヤーズファーストの理念に基づき、未来ある生徒、指導者の育成に努める活動を行っていきたい。

2

高体連実践発表

挑戦

～少ない人数でも、できることがある～

京都府立須知高等学校
女子ホッケー部顧問
髙　橋　祥　子

1 チームの紹介

⑴ 京都府立須知高等学校女子ホッケー部の全国大会の主な戦績

① 創部

1985年（昭和60年）京都国体を契機に創部

② 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）〈全国制覇　2回〉

1993年（平成５年）	全国高等学校総合体育大会	準優勝
1997年（平成９年）	全国高等学校総合体育大会	☆優勝（初）
2007年（平成19年）	全国高等学校総合体育大会	☆優勝（2）
2009年（平成21年）	全国高等学校総合体育大会	ベスト８
2015年（平成27年）	全国高等学校総合体育大会	ベスト８
2021年（令和３年）	全国高等学校総合体育大会	ベスト８

③ 全国高等学校選抜ホッケー大会〈全国制覇　1回〉

1996年（平成８年）	全国高等学校選抜ホッケー大会	☆優勝（初出場・初優勝）
2002年（平成14年）	全国高等学校選抜ホッケー大会	準優勝
2006年（平成18年）	全国高等学校選抜ホッケー大会	第３位
2007年（平成19年）	全国高等学校選抜ホッケー大会	第３位
2019年（令和元年）	全国高等学校選抜ホッケー大会	ベスト８
2020年（令和２年）	全国高等学校選抜ホッケー大会	ベスト８
2021年（令和３年）	全国高等学校選抜ホッケー大会	ベスト８

④ 国民体育大会〈全国制覇　1回〉

2003年（平成15年）	静岡わかふじ国体	準優勝（６名出場）
2007年（平成19年）	秋田わか杉国体	準優勝（12名出場）
2014年（平成26年）	長崎がんばらんば国体	準優勝（５名出場）
2019年（令和元年）	茨城ゆめ国体	優勝（３名出場）

⑤ U18日本代表選手の輩出多数

⑵ 令和3年度の現況

① 今年度の部員は11名（ホッケーの試合をするために必要な人数は、11名）

- 部員の多くは、地元の京丹波町でホッケーを始め、スポーツ少年団や中学校の部活動でホッケーを経験した選手が多く、現在、本校の結果が残せているのは高校以前の取組の成果が大きい。何より地元の地域力である。
- 令和２年度より全国からホッケー部員の募集ができるようになり、２年生（１名）、１年生（２名）が他府県から共に活動する仲間として活動している。
- 部員が11名と、試合をするにはギリギリの人数のため、公式戦には他の部活動の選手やマネージャーなど、助っ人の力を借りて「チーム須知」として試合に出場している。
- 本校の在籍数は、163名（男子96名、女子67名）という状況である。

2 日々の練習で意識していること　―チームで戦うために必要なこと―

(1) 「できないこと」を減らすのではなく、「できること」を増やす

- 一常に積極的な姿勢でなければ、良い結果は生まれない。
- 「今」１人ひとりができることを精一杯やらせる。
  ⇒「努力の反復が技術を生み、全力疾走が体力を生み、一生懸命が自信を生む」
- 「試合」は普段の活動の「試し合い」
  普段やっていないことをやろうとすると失敗が起きやすくなる。

(2) ケガをさせない練習

- 追い込みすぎて無理をさせてしまうとケガが発生する。そうするとその後の練習や試合ができなくなるので選手自身にとっても、チームにとっても大打撃になる。
- 集中力が切れたなと思ったら、違う練習に切り替える。（同じ練習を長くやりすぎない）
- その日の練習メニューをできるだけ事前に伝えて取り組ませている。
- ケガをさせないためにトレーナーによるトレーニング指導を実施している。

(3) 1人2役以上の活動を意識させる

- １人ひとりがこなせるポジションを２つ以上要求している。（GKも同様）

理由

- 前線や中盤などは特にハードなポジションであり、特定の選手に負担をかけすぎないよう、状況によってポジションを入れ替える等の配慮をするため。
  ※ホッケーは交代に人数制限が設けられていないが、本校では人数不足のため選手交代がほとんどできない。また、負担が大きすぎるとケガなどの心配も出てくる。
- 違うポジションをすることによって、仲間の動きがわかり、共通理解が深まるため。
- 交代選手が少ない中でポジションを固定すると、相手チームに分析され、対策を講じられやすくなるため。
  （例）FWの選手が、DFもする。（相手選手をマークやブロックするなどの守備を行う）
  GKの選手が、FWもする。（ドリブルやパス、シュートを打つなどの攻撃を行う）

(4) 練習メニューの工夫～人数が少なくても、できることはある～

- 練習の中での重点ポイントを意識して実施させる。
  A：テンポを上げて、スピーディーに実施する練習（＝練習の量）
  B：技術の精度を上げるため、インターバルを設けて実施する練習（＝練習の質）
  日々の練習では、A「練習の量」を求める練習とB「練習の質」を求める練習を組み合わせて実施している。
- 「この練習は何分間、実施する」とか「この練習は何回、○○セット実施する」というように事前に練習する時間や回数などを伝えて実施していくと精度がアップするようになった。
  設定時間や設定回数が終わり上手くいかなかった場合や納得できなかった場合は、生徒たちから「もう一回やります、もう一回やりたいです」と声が上がるようになった。

- どの練習でも必要な必須項目

見る：「どのような状況か」「味方・相手の位置」「空いているスペースはどこにあるのか」
考える：「誰と」「どこで」「どのように攻めるか」「どのように守るか」
感じる：「味方、相手の動きの意図」を読む
決断する：「いける」と感じたら、思い切っていく→「挑戦する」
「いけない」と感じたら、100％のプレーに切り替える→「安全に」
動く：ボールが動いたら、自分も動く（同じ位置に留まっていることはない）
声：「要求の声」「指示の声」「情報の声」「盛り上げる声」

⑸ YouTubeスタジオやiPadの活用

- 試合のビデオを「限定公開」でチーム共有している。相手チームの攻撃や守備の特徴はもちろんのこと、得点に繋がるセットプレー（PC）の確認にはかなり効果があると感じている。
- 自分の動きやチームの動きを好きな時間に好きなだけ確認できるため、ミーティングでチーム確認する前に各自で確認する、気になった部分を後で確認するなど、時間を有効活用できる。

3 施設の活用

⑴ グリーンランドみずほ人工芝ホッケー場

グリーンランドみずほ人工芝ホッケー場

須知高校とグリーンランドみずほ人工芝ホッケー場は、車で10分程度の位置にあり、人工芝ホッケー場が使用できる時はできるだけ利用をしている。平成27年全国高校総体開催に向けて人工芝の全面改修が行われた。技術面においては、「土のグラウンドで練習するよりも３倍は早く上達し、試合で活躍できる」と、全国強豪校である岐阜各務野高校の指導者の方からの助言でもある。ホッケーの公式戦では人工芝が適用され、京都府大会、近畿大会でも地元の「グリーンランドみずほ人工芝ホッケー場」が大会の会場になることも多いため、経済的に多少費用がかかっても活動することが多い。2020東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン構想の１つとして、夜間照明施設が設置され、平日の授業後にも利用できるようになったことが在り難い。特に、日没が早くなる冬季期間に利用できることは大変大きい。また、スポーツ少年団、中学生、高校生、社会人の交流が今後さらに連携され、合同練習等が継続的に実施できるようになることが期待されている。

⑵ 京都トレーニングセンター（2016年7月に開所）（http://www.kyoto-tc.com/）

須知高校と京都トレーニングセンターは、徒歩10分程度の距離にあり、定期的に平日の授業後に京都トレーニングセンターへ移動し、測定・指導を受けている。

① 測定について

「基礎的体力測定」をはじめ、高精度の体組成測定器にて「体組成測定」を行っている。この測定は、全身の体脂肪率のみならず、両腕・両脚そして体幹部の５部位に分け、筋肉量と脂肪量を把握することができる。「筋力測定」では、等速性筋力測定というオリンピック選手が測定等にて利用する「ハイパフォーマンススポーツセンター」での測定方法と同様の測定を実施することができる。等

速性筋力測定では、主に、膝関節の伸展（太ももの前側）及び屈曲（太ももの裏側）の筋力を測定し、左右の筋力発揮能力の差、及び太もも前側と裏側の筋力差の確認を行っている。この測定は、膝関節のケガ予防に大きく関連するものである。その他、「オリジナルテスト」として、チームの状況に応じたテーラーメイドの測定をトレーナーと相談して、測定項目を設定して実施している。須知高校ホッケー部では、ホッケーの試合で必要とされるスピード・ステップ・パワー発揮などの敏捷性に関する測定項目を増やし、数種類実施している。測定については、普段の練習環境に合わせ、人工芝で実施している。測定後には、選手自身が状況を確認できるよう、「測定結果」の返却（フィードバック）を実施していただいている。

京都トレーニングセンター

敏捷性測定の様子

② 指導について

(a) 「トレーニング指導」

「測定結果」を基にしたトレーニング指導を受けている。チーム全体の課題のみならず、個人の課題に応じて、個別に負荷、回数を設定した内容でトレーニングを実施していただいている。年間の試合や大会スケジュールに合わせて、トレーニングの強度等を調整する「ピリオダイゼーション」についても導入している。

トレーニングの様子1

(b) 「コンディショニング指導」

主に試合・大会時における事前事後の対応を依頼している。ストレッチ指導やセルフマッサージ指導、試合前のウォーミングアップ、試合後のクーリングダウンの指導、そして、アイシング等のケアについてもアプローチしていただいている。

トレーニングの様子2

(c) 「栄養サポート」

京都トレーニングセンターには管理栄養士が常勤されており、日常的な食事内容の確認はもちろんのこと、定期的に栄養バランスのチェックを行い、継続的に栄養摂取状況の確認を実施している。試合期においては、試合期に留意すべき食事内容や試合数日前から試合当日に摂るべき食事についての指導も受けている。他府県での試合、特に全国大会では、チームが宿泊する施設で提供される食事内容を事前に確認していただき、場合によっては、食事内容の一部を変更する等の調整もしていただいている。

試合帯同（W-up）の様子

栄養サポートの様子

(d) 「スポーツメンタルサポート」

心理的競技能力診断検査を行い、チーム及び個人における心理傾向を確認し、チームに対するメンタルサポートや個人におけるサポートも実施していただいている。また、大会に向けては、良いパフォーマンスを発揮するために必要とされる心理的要素をポジティブな状態に変容させることを目的とした「モチベーションビデオ」の作成も行っていただいた。

(e) 「メディカルサポート」

京都トレーニングセンターに月一回、京都府立医科大学の医師が来所されている。京都トレーニングセンターは診療所登録となっていないため「医事相談」として、状況の確認がメインとなっている。

4 全国大会の様子

(1) 2020年(令和2年)全国高等学校選抜ホッケー大会　ベスト8

- 1 回 戦　須知　3 － 0　香川中央高校（香川県）
- 2 回 戦　須知　3 － 1　北海学園札幌高校（北海道）
- 準々決勝　須知　1 － 2　石動高校（富山県）

〈試合の状況・成果と課題〉

令和２年度はコロナ禍のため全国高等学校総合体育大会や国民体育大会等が中止される異例の年となり、最初の全国大会となる本大会は、感染拡大防止の観点から、検温や消毒、会場の動線などあらゆる制限がかかる中で実施された。１、２回戦では、練習で強化してきたペナルティーコーナー（PC）からの得点が決まり、心に余裕を持つことができ、試合を優位に進めることができた。続く、準々決勝では本大会準優勝の石動高校に先制されるも第２Ｑに同点に追いつき、残り10分まで同点のまま反撃を見せる粘りを見せた。結局、追加点を取ることができず惜敗し、２年連続のベスト８となった。13人で挑んだ本大会も、連戦を勝ち抜いていく気力・体力や、決勝進出常連校と対等に戦っていく技術・走力・パワーなど圧倒されるものが大きく、更なるレベルアップが必要であると痛感した。

(2) 2021年(令和3年)全国高等学校総合体育大会(インターハイ)　ベスト8

- 2 回 戦　須知　1 － 1　巨摩高校（山梨県）
  5 SO 4
- 準々決勝　須知　1 － 1　伊吹高校（滋賀県）
  1 SO 3

〈試合の状況・成果と課題〉

本大会もコロナ禍で厳しい状況の中、また大雨による悪天候のため大会開始前日に試合日程が変更されるなど、異例の大会となった。本校は、11名の部員と３名の助っ人を加えて挑んだ。試合は、巨摩戦・伊吹戦ともに、立ち上がりから一進一退の激しい攻防となった。特に初戦の巨摩戦は、プレスが早く組織連携の高いチームであったため、一時も気が抜けないハードゲームとなった。選手交代がほとんどできない本校にとっては、特定の選手に負担をかけすぎないようにポジションを変え、粘りながらチャンスがくるのを狙った。成果としては、①先取点を取れたこと、②同点に追いつかれるも不思議と選手たちが焦らず、慌てなかったこと、③「負けたくない」という強気な思いが「チーム一丸となっている感覚」をチームが感じ取れたことが挙げられる。また課題としては、①巨摩戦・伊吹戦ともに先取点を得ることができたが追加点を得ることができなかったこと、②ペナルティーコーナー（PC）の精度がまだまだ不十分であったこと、③連戦の中、試合終了まで粘りきる精神面と体力面が何より足りなかったことが挙げられる。

5 今後について

⑴ 部員集め

本校ホッケー部の多くは、スポーツ少年団や中学校でホッケーを経験している選手が多数を占めているため、地元京丹波町での土台づくりは欠かせない。全国スポーツ少年団ホッケー交流大会を期に、小学校単位にスポーツ少年団が結成されたが、近年は少子化の影響を受け、小学校単位でのチーム作りが困難な状況となり、旧丹波町・旧瑞穂町単位を１チームとして活動を実施している状況である。また、京都国体以後創部された京丹波町内の蒲生野中学校、瑞穂中学校が全国大会への出場を競い合いながら活動を続けている。このような活動の中、本年度は瑞穂中学校の男子部が全国大会で第３位の成績を収めるなど快挙を挙げている。日本のホッケー競技の強化と普及を図るため、11月に都道府県対抗で実施する11人制大会が創設されているが、ここ２年間はコロナ禍の影響を受け大会は中止されている。普段の活動においても共に活動する機会が減少している。しかしながら、京都府内唯一の人工芝ホッケー場であるグリーンランドみずほ人工芝ホッケー場において、夜間照明施設が設置されたことにより、状況に合わせ、地元京丹波町のスポーツ少年団、中学生、高校生、大学生、社会人と幅広い年齢層の交流が実施され始め、楽しく・気軽にホッケーができる活動の機会が広がっている。また、今後についてはさらにホッケーの魅力を伝えていくこと、私自身がそうであったように１人でも多く、他種目からでも、高校からでも、ホッケーを始める選手の発掘を目指し、小・中・高の連携を深めていく活動が急務である。

⑵ 練習方法の変容

① コロナ禍の練習で考えさせられたこと

活動時間や活動場所が制限され、練習量が「かなり足りない」と感じていた私には、焦りがあった。しかし、限られた時間（２時間）しかできないからこそ、コンビで動く練習を増やし、ポジション別練習を意図的に行うように実施した。特に、以前U18のスタッフとしてオランダ（世界ラン

キング１位、東京2020オリンピック優勝国）に遠征に行った時の練習方法を活用した。２時間で効率よく、８人１グループで行う練習を実施していたことを思い出し、日々の練習に取り入れるようにした。全体の行動が早くなったり、効率性を考えたり、運動強度を上げたり、選手同士のコミュニケーションが増加したりするなど、以前より集中して活動ができるようになった。土日や長期休暇中は時間をかけて一日練習をするのが当然だと思っていたが、半日でしっかり集中して内容ある活動を実施していくのも良いのではないかと実感している。少ない人数だからこそ負担になっていることもあるので、体を積極的に休め活動していくスタイルが本校にとっては良いのではないかと考え始めている。個人で活用できる時間をどのように活用していくのかが、今後の課題でもある。

②　ホッケー環境と人数不足をどう補うか

永久の課題である。本校の現状では、学校の近くに人工芝ホッケー場はあるものの部員数がギリギリのため紅白戦を実施するなどのゲーム形式の練習は、男子部などの協力がないとできない。全国の強豪校は、大学や実業団などが近くに存在し、頻繁に交流する機会を持っており、高いレベルの練習試合が実施できるだけではなく、トッププレーヤーの個人技術やチーム戦術などを間近で見ることができる。生徒にとって新しい発見になるなど、技術の向上において大きな刺激になっている。しかしながら、京丹波町に大学や実業団があるわけではないので、グリーンランドみずほ人工芝ホッケー場など近隣で高いレベルの公式戦が開催される時は、観戦する機会を持てるよう心掛けていきたい。

⑶　高校教諭（指導者）としての責務

①ホッケー選手として、スポーツ少年団→中学校→高校と積み上げてきたものを次のステージ（大学や実業団）に挑戦させ、日本ホッケー競技の強化を図っていく必要がある。②次の世代へ受け継ぐ進路指導としては、ホッケー界だけに留まらず別のステージやセカンドキャリアとして社会で活躍できる人材の育成をすることなども担っている。選手としてだけではなく、卒業後も何らかの形でホッケーに関わる生徒を増やすことも高校の指導者としての役割ではないかと感じている。

3

関連リンク集

※スポーツ指導に有益な情報が掲載されているウェブサイトについて、関連性の高いタイトルのみ抜粋し、サイトマップ形式で紹介します。

※記載のURLまたはQRコードより御覧ください。

公益財団法人全国高等学校体育連盟 研究部　ホームページ

http://ktr-k.com/

大会資料
http://www.ktr-k.com/taikaishiryo/

- 『雪国のハンデを克服し世界へ挑戦 』～心技体向上による自立型人間形成を目指した取り組み～
- 『主体要因に着目したスポーツ外傷・障害予防教育と効果』
  ～整形外科医と連携・協働実践と生徒変容～
- 『運動部活動の活性化』～海部高校バスケットボール部の取り組み～
- 『競技力向上システムの構築 』～大津高ラグビー部から大津緑洋高ラグビー部へ～
- 『部活動における心の健康と安全』～こころの支援に向けた実態調査から～
- 『男子新体操競技の普及と発展について』
- 『競技力向上に向けた取り組み 』～「誰でもできる　どこでもできる」運動部活動指導を目指して～
- 『運動部活動事故防止に関する事例研究』～Reason J. の「安全文化」の視点から～
- 『福岡県高体連研究専門部による運動部指導者への取り組み』
  ～福岡県高体連HP活用【アーチェリー競技】を通して～　他

公益財団法人日本スポーツ協会　ホームページ

https://www.japan-sports.or.jp/

〈支える〉スポーツを支える人と地域
スポーツ医科学研究

スポーツ医・科学研究報告
https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid669.html

- 発育期のスポーツ活動のあり方に関する研究～アスリート育成モデルの構築
- ジュニア期におけるスポーツ外傷・障害の予防への取り組み
- メンタルマネジメントに関する研究
- JOC高所トレーニング医・科学サポート
- スポーツ選手に対する最新の栄養・食事ガイドライン策定に関する研究
- ジュニア期の夏期スポーツ活動に関する研究
- ジュニア期の効果的指導法の確立に関する基礎的研究
- 肉離れに関する最新の指針　他

医・科学ガイドブック
https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid776.html

- スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック
- 体育・スポーツにおける多様な性のあり方ガイドライン（二ヵ国語版）
- 女性アスリートのための月経セルフチェックシート
- スポーツ外傷・障害予防ガイドブック
- 女性スポーツ促進に向けたスポーツ指導者ハンドブック
- しっかり水分補給！元気に運動
- 高地トレーニング
- スポーツ活動と防衛体力
- ジュニア期のスポーツライフマネジメント
- ジュニア期の体力トレーニング　他

独立行政法人日本スポーツ振興センター
ハイパフォーマンススポーツセンター　ホームページ

https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/

HPSCについて
https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/about/tabid/1102/Default.aspx

刊行物
- ハイパフォーマンススポーツセンター年報
  学術誌・ガイドブック
- 女性アスリートのためのコンディショニングブック
- 実態に即した女性アスリート支援のための調査研究　他

知る・学ぶ
https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/study/tabid/1445/Default.aspx

スポーツ心理
- メンタルトレーニング技法　他

スポーツ栄養
- アスリートにとっての栄養・食事の意味
- スポーツフード＆サプリメント　他

フィットネス・チェックマニュアル

これまでの歴史
サポートのたね
- 脳温に対するアイススラリー摂取の影響に関する研究
- 運動課題が複雑になるとパワーを出し切れない場合がある
- アスリートを科学的にサポートするとはどういうことか
- 身体のバネをうまく使うためのトレーニング
- 静的ストレッチングで筋の硬さはどう変わる？　他

JISS Worker

過去コラム一覧

NEW STYLE with HPSC　COVID-19に係る取組み
～これまでとこれから～
https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/tabid/1715/Default.aspx

トレーニング
- トレーニングエクササイズ（オリ・パラ）一覧
- サーキットトレーニング（オリ・パラ）
- 部位／目的別プレパレーションエクササイズ一覧
- 姿勢チェック（FAAB）
- 上半身／下半身プログラム一覧
- コントロール・プログラム 上半身／下半身　他

公益財団法人スポーツ医・科学研究所　ホームページ

http://www.sorc.or.jp/

研究活動

研究報告
http://www.sorc.or.jp/activity/2019062109425696.html#02

- 足部疲労骨折について―競技種目別にみた発生部位の特徴―
- 疲労骨折の競技種目別特徴
- 恥骨疲労骨折例の検討
- アスリートの踵骨疲労骨折
- 当所におけるスポーツ外傷・障害の世代別の特徴
- 当所における成長期のスポーツ外傷・障害の特徴
- 当所における外脛骨障害に対する手術例の検討
- 当所における大腿骨疲労骨折例の検討

- 下肢スポーツ障害後にランニングを再開した陸上競技長距離選手一症例の体幹加速度について
- 膝蓋腱炎の発生メカニズムと対策～バスケットボール選手の3症例の検討～
- 陸上競技（中・長距離）選手の骨盤・下肢疲労骨折について―男女別に見た発生部位の特徴―
- 当施設における骨盤裂離骨折の臨床的特徴
- 当施設における投球障害の特徴
- 膝前十字靭帯再建術を受ける患者の看護のまとめ
- 男子陸上競技長距離選手の下肢運動器機能の特徴について
- ジュニアアスリートの身体特性
  ―男子ジュニアアスリートの成長に伴う股関節力、下肢柔軟性の経時的変化―
  ―成長期における股関節周囲筋力、柔軟性の経時的変化―
  ―競泳選手における下肢関節可動域・柔軟性の経時的変化―
  ―股関節筋力の年代別比較―
- 女子ジュニア競泳選手の無酸素性能力とパフォーマンスの関係
- 女子陸上競技長距離選手の下肢運動器機能の特徴について
- 男子ジュニア競泳選手の無酸素性パワーと泳パフォーマンスの関係
- 3種類の負荷を用いた腕クランキングテストにおける最大無酸素パワー測定の妥当性の検討
- ランニング速度の違いによる体幹加速度の変化について
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックあいち選手強化事業におけるジュニア選手の競技力向上に関する報告
- カーブ走における体幹加速度の左右非対称性
- アーリーコッキング期における投球動作の特徴と足部内側縦アーチの関係
- ワインドアップ期の体幹傾斜が投球時の骨盤，肩関節運動に及ぼす影響
- 投球動作のアーリーコッキング期における足関節に関する運動学的分析　他

日本トレーニング科学会　ホームページ

https://training-sci.com/

学会誌
https://training-sci.com/journal/

33-2 ●スポーツパフォーマンス（投球）の正確性を最大限に高めるための方法
32-4 ●中・長距離ランナーにおけるプライオメトリックトレーニングの効果と実践
30-4 ●成長期野球選手における投球障害と身体発育因子の関係
30-2 ●子ども・青少年における身体活動と非認知能力
30-1 ●ジュニアアスリートへの栄養学の貢献（地域TID事業での取り組みから）
29-3 ●ミニハードルテストのタイムは疾走時のピッチと関連するか？
29-2 ●ラグビートップリーグ選手と大学生選手におけるタックル動作の運動学的差異
29-1 ●入浴・保温による身体加温が運動パフォーマンスに及ぼす影響
29-1 ●バスケットボールのディフェンス選手における切り返し動作の特徴
29-1 ●走幅跳の試技前に行う全力疾走が助走及び跳躍距離に与える即時的影響
28-4 ●スポーツ現場における戦略的リカバリー
28-4 ●バドミントン競技選手における睡眠の質が競技パフォーマンスに与える影響
27-1 ●立ち幅跳びにおける最適跳躍角度と競技種目の関連性に関する研究
26-4 ●体幹回旋を伴うメディシンボール投げパフォーマンスとバレーボールのスパイク速度の関係
25-2 ●片手でのシュートトレーニングがバスケットボールにおけるフリースローの成功率に及ぼす影響
25-2 ●球技種目に遠山の目付は必要か？―注視点距離から見た広域周辺視の視覚情報獲得―
25-1 ●パフォーマンスを向上させる方法としての運動前冷却（プレクーリング）
24-1 ●サッカーインフロントキックにおける的射の正確性
24-1 ●テニスのグランドストローク局面における後ろ脚の活用とショットの正確性との関連性
―プロ選手と学生選手との比較―
24-1 ●カナディアンカヌー競技におけるタオルを牽引する漕トレーニングが艇速度に及ぼす影響
23-3 ●ウォームアップにおける各種ストレッチングがパフォーマンスに及ぼす影響　　他

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）ホームページ

https://www.playtruejapan.org/

教育関係の方へ

授業でアンチ・ドーピングを取り扱う方　―保健体育教諭、小学校～高校に勤務されている方―

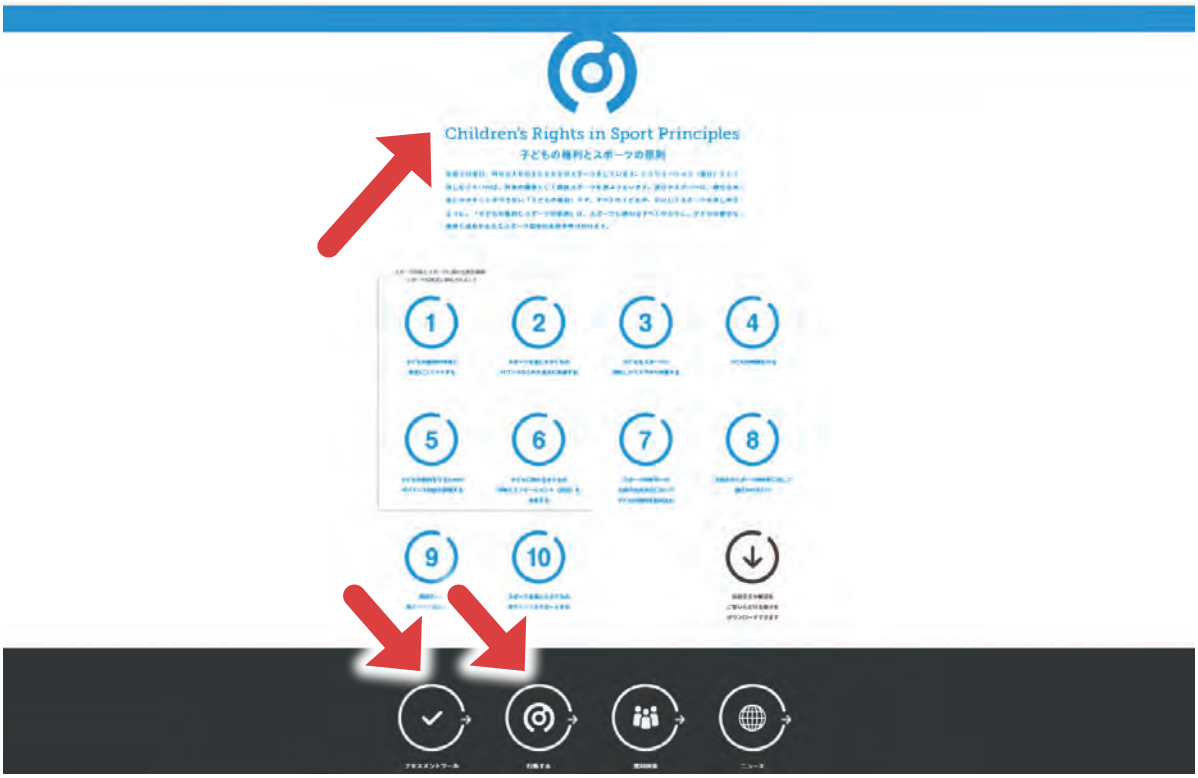
- なぜアンチ・ドーピングが必要なのか
- ルールについて知る
- アンチ・ドーピングの違反について知る
- 教材のダウンロード
- JADAについてもっと知る

部活動の指導をされている方　―保健体育教諭、部活動の監督、コーチ―

- なぜアンチ・ドーピングが必要なのか
- ルールについて知る
- アンチ・ドーピングの違反について知る
- 使用する薬について調べる・相談する
- サプリメントについて知る
- ダウンロード
- JADAについてもっと知る

公益財団法人日本ユニセフ協会特設サイト
『子どもの権利とスポーツの原則』

https://childinsport.jp/



10の原則

●スポーツ団体とスポーツに関わる教育機関、スポーツ指導者に期待されること

1　子どもの権利の尊重と推進にコミットする

2　スポーツを通じた子どものバランスのとれた成長に配慮する

3　子どもをスポーツに関係したリスクから保護する

4　子どもの健康を守る

5　子どもの権利を守るためのガバナンス体制を整備する

6　子どもに関わるおとなの理解とエンゲージメント（対話）を推進する

●スポーツ団体を支援する企業・組織に期待されること

7　スポーツ団体等への支援の意思決定において子どもの権利を組み込む

8　支援先のスポーツ団体等に対して働きかけを行う

●成人アスリートとその組織団体に期待されること

9　関係者への働きかけと対話を行う

●子どもの保護者に期待されること

10　スポーツを通じた子どもの健全な成長をサポートする

アセスメントツール

行動する

他

4

中体連統計資料

令和3年度近畿中学校総合体育大会の成績について（夏季）

1. 会　　期　令和３年８月４日㈬～10日㈫
　※ラグビー10月31日・11月７・14日、駅伝12月４・５日、スキー令和４年１月23・24日
2. 会　　場　神戸市・明石市・尼崎市・西宮市・三木市・赤穂市・加古川市・南あわじ市・高砂市・姫路市・丹波篠山市・大阪市（大阪府）の各会場
3. 実施種目　19競技
4. 参加人数　1,104名（令和３年８月17日現在）
5. 競技成績　優勝数19（団体６・個人13）
　入賞数136（団体35・個人101）
6. 優勝内訳

男子団体	ハンドボール		京田辺市立田辺中学校
	バドミントン		長岡京市立長岡第三中学校
	水泳（競泳）		京都市立桂中学校
	テニス		立命館宇治中学校
男子個人	剣道		田中　陽己（久御山）
	陸上	共通400ｍ	中村　玲皇（山城）
		共通1500ｍ	植田　圭祐（大住）
		低学年４×100ｍＲ	木曽　颯人・寸田　蓮人・野瀬　大翼・長尾琥汰朗（詳徳）
		走高跳	山代　壱意（上京）
	水泳	100ｍ背泳ぎ	須磨　湧希（音羽）
		200ｍ個人メドレー	出口　哲（太秦）
		400ｍリレー	大西　雄斗・中村　啓将・清水　瑠夏・芝田　凱（桂）
		400ｍメドレーリレー	井上　諒哉・庄司　晴・中村　啓将・大西　雄斗（桂）
女子団体	バスケットボール		京都精華学園中学校
	ハンドボール		京田辺市立田辺中学校
女子個人	水泳	200ｍ自由型	大秦　眞峯（西京附属）
		400ｍ自由形	大秦　眞峯（西京附属）
	体操	総合（３種目）	山田　侑奈（平安女学院）
		ゆか	大筆　光莉（長岡）

7. 入賞の年次推移　（　）内は出場延べ選手数

年度		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	合計	
平成23年（1,265）	団体	5	7	4	2	5	2	0	2	40	153
				12		1					
	個人	19	9	20	6	7	7	8	10	113	
				8		19					
平成24年（1,374）	団体	1	12	4	3	2	3	1	1	51	193
				8		16					
	個人	13	13	12	12	15	20	17	15	142	
				7		18					
平成25年（1,278）	団体	5	5	6	2	5	2	1	0	40	182
				6		8					
	個人	13	21	12	10	14	11	18	18	142	
				6		19					

年度		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	合計	
平成26年 (1,227)	団体	9	5	3	3	4	1	3	0	51	195
				5		18					
	個人	19	10	13	8	9	18	21	18	144	
				7		21					
平成27年 (1,271)	団体	9	8	3	3	1	3	1	1	49	208
				7		13					
	個人	18	17	17	21	18	9	19	14	159	
				9		17					
平成28年 (1,087) 夏季のみ	団体	1	7	5	1	1	2	0	0	42	174
				11		14					
	個人	16	14	8	9	14	17	16	7	132	
				11		20					
平成29年 (1,092) 夏季のみ	団体	2	10	3	0	2	3	3	1	46	196
				7		15					
	個人	20	16	8	14	11	16	18	15	150	
				10		22					
平成30年 (1,071) 夏季のみ	団体	6	5	5	4	2	3	2	0	42	168
				4		11					
	個人	10	12	14	16	13	12	13	19	126	
				4		13					
令和元年 (1,098) 夏季のみ	団体	6	9	4	1	4	5	0	3	45	181
				5		8					
	個人	20	16	12	4	11	14	12	15	136	
				10		22					
令和2年 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	団体										
	個人										
令和3年 (1,104) 夏季のみ	団体	6	4	1	5	2	4	1	2	41	155
				6		10					
	個人	13	19	7	10	11	14	10	12	114	
				4		14					

令和3年度 全国中学校体育大会（夏季）の成績について

1. 期　　間　令和３年８月17日㈫～26日㈭　関東ブロックにて開催
　駅　　伝　令和３年12月18日㈯～19日㈰滋賀県野洲市・湖南町・竜王町
　ス キ ー　令和４年２月１日㈫～４日㈮長野県野沢温泉村
　スケート　令和４年１月29日㈯～２月１日㈫長野県長野市
2. 会　　場　関東ブロック　他
3. 競 技 数　16競技（京都府12競技に出場）※夏季大会のみ
4. 出場者数　220名（男子122名　女子98名）※夏季大会のみ
5. 競技成績　優勝数　１（団体０校・個人１種目）
　入賞数　27（団体７校・個人20種目）

《団　体》

順位	種目名	男女別	学校名	団体・個人	種目	記録等
2	水泳競技	男子	京都市立桂中学校	団体	学校対抗	29点
3	バスケットボール	女子	京都精華学園中学校	団体	学校対抗	ベスト4
3	ソフトテニス	女子	京都光華中学校	団体	学校対抗	ベスト4
5	剣道	男子	久御山町立久御山中学校	団体	学校対抗	ベスト8
5	バスケットボール	男子	京都精華学園中学校	団体	学校対抗	ベスト8
5	ハンドボール	男子	京田辺市立大住中学校	団体	学校対抗	ベスト8
5	ハンドボール	女子	京田辺市立大住中学校	団体	学校対抗	ベスト8

《個　人》

順位	種目名	男女別	学校名	氏名	種目	記録等
1	水泳競技	男子	京都市立桂中学校	井上　諒哉 庄司　晴 中村　啓将 大西　雄斗	4×100mメドレーR	4分04秒22
3	陸上競技	男子	京都市立桂中学校	加嶋　翼	3000m	8分39秒03
3	陸上競技	女子	京田辺市立大住中学校	野本　菜々	砲丸投	14m02cm
3	水泳競技	男子	京都市立太秦中学校	出口　哲	200m個人メドレー	2分06秒64
3	水泳競技	男子	京都市立桂中学校	大西　雄斗 中村　啓将 芝田　凱 清水　瑠夏	4×100mR	3分43秒35
3	柔道	女子	京都市立洛南中学校	木村　穂花	57kg級	ベスト4
4	陸上競技	男子	京田辺市立大住中学校	植田　圭祐	3000m	8分40秒63
4	水泳競技	男子	京都市立音羽中学校	須磨　湧希	100m背泳ぎ	59秒02
4	水泳競技	女子	京都市立西京高等学校附属中学校	大秦　眞峯	400m自由形	4分20秒97
5	陸上競技	男子	京都市立藤森中学校	奥野　恭史	3000m	8分43秒38

順位	種目名	男女別	学校名	氏名	種目	記録等
5	水泳競技	男子	京都市立太秦中学校	出口　哲	200m自由形	1分54秒76
5	水泳競技	女子	京都市立西京高等学校附属中学校	大秦　眞峯	200m自由形	2分05秒96
5	水泳競技	女子	京都市立神川中学校	安達　愛菫	200mバタフライ	2分15秒75
5	柔道	女子	八幡市立男山第三中学校	才田恵莉香	40kg級	ベスト8
5	柔道	女子	京都市立藤森中学校	川野　幸音	44kg級	ベスト8
6	水泳競技	女子	京都市立京都御池中学校	貝瀬　結香	400m個人メドレー	4分53秒49
7	陸上競技	男子	亀岡市立亀岡中学校	増田雄一郎 坂本新ノ助 藤本　昌大 水田　優貴	4×100mR	44秒32
8	陸上競技	男子	木津川市立山城中学校	中村　玲皇	400m	52秒48
8	陸上競技	女子	京都市立梅津中学校	澤田いろは	800m	2分17秒95
8	陸上競技	女子	京都市立松尾中学校	松田りんどう	走高跳	1m60cm
8	水泳競技	男子	京都市立桂中学校	大西　雄斗	1500m自由形	16分33秒16

6.　入賞の年次推移　　（　）内は出場延べ選手数

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	合計	
平成22年 (222)	団体		1	1	1				1	4	25
	個人	1	4	6	3	2	2	2	1	21	
平成23年 (363)	団体		1	1	1			2	2	8	25
						1					
	個人	4	1	4	3	2	1	1	1	17	
平成24年 (303)	団体							1	1	7	24
	個人		1	1	2	1	1	1	5	16	
				2		2					
平成25年 (339)	団体		1					1	1	6	30
				1		2					
	個人	2	3		4	1	2	4	3	24	
				2		3					

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	合計	
平成26年 (282)	団体	1							1	6	37
				2		2					
	個人		6	5	2	4	4	2	3	31	
				1		4					
平成27年 (288)	団体	1					1		1	5	16
						2					
	個人	2				2	1	1	3	11	
						2					
平成28年 (256)	団体		1				1			5	26
				1		2					
	個人	1	1	3	2	4	4	1	2	21	
				1		2					
平成29年 (366)	団体							1		6	26
				3		2					
	個人	2	3	2	2	1	1	2	2	20	
				2		3					
平成30年 (266)	団体	2						1		6	26
				1		2					
	個人	4		3	2	3	3	4		20	
						1					
令和元年 (415)	団体	1	2	1	1	2				13	39
				1		5					
	個人	6	2	3	4	2	3	3	2	26	
						1					
令和2年 ※新型コロナの影響 により中止	団体										
	個人										
令和3年 (220)	団体	0	1	0	0	0	0	0	0	7	28
				2		4					
	個人	1	0	4	3	4	1	1	4	21	
				1		2					

運動部活動加入率の推移

令和３年10月12日現在

年度	在籍生徒数			運動部員数			加入率		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
平成14年度	37,646	36,669	74,315	30,192	21,515	51,707	80.2	58.7	69.6
平成15年度	36,767	35,988	72,755	29,495	20,959	50,454	80.2	58.2	69.3
平成16年度	35,842	35,106	70,948	28,842	20,837	49,679	80.5	59.4	70.0
平成17年度	35,569	35,098	70,667	28,613	20,745	49,358	80.4	59.1	69.8
平成18年度	35,250	34,804	70,054	28,387	20,674	49,061	80.5	59.4	70.0
平成19年度	35,860	35,387	71,247	28,479	20,373	48,852	79.4	57.6	68.6
平成20年度	35,518	35,149	70,667	28,401	20,131	48,532	80.0	57.3	68.7
平成21年度	35,527	35,143	70,670	28,301	20,056	48,357	79.7	57.1	68.4
平成22年度	35,934	35,430	71,364	28,758	20,514	49,272	80.0	57.9	69.0
平成23年度	36,589	36,082	72,671	28,511	20,137	48,648	77.9	55.8	66.9
平成24年度	36,502	35,852	72,354	29,041	19,880	48,921	79.6	55.5	67.6
平成25年度	36,584	36,112	72,696	29,043	19,942	48,985	79.4	55.2	67.4
平成26年度	36,162	35,495	71,657	28,639	20,005	48,644	79.2	56.4	67.9
平成27年度	35,732	34,959	70,691	28,145	19,795	47,940	78.8	56.6	67.8
平成28年度	35,080	34,254	69,334	27,722	19,391	47,113	79.0	56.6	68.0
平成29年度	34,394	33,579	67,973	27,057	19,152	46,209	78.7	57.0	68.0
平成30年度	33,949	33,273	67,222	26,204	18,944	45,148	77.2	56.9	67.2
令和元年度	33,879	32,950	66,829	25,500	18,785	44,285	75.3	57.0	66.3
令和２年度	33,933	32,874	66,807	25,094	18,675	43,769	74.0	56.8	65.5
令和３年度	33,797	32,838	66,635	25,085	18,791	43,876	74.2	57.2	65.8

運動部員数内訳									
年度	男子				女子				男女
	1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計	総合計
平成14年度	10,247	10,245	9,700	30,192	7,515	7,272	6,728	21,515	51,707
平成15年度	10,089	9,769	9,637	29,495	7,344	6,867	6,748	20,959	50,454
平成16年度	9,934	9,608	9,300	28,842	7,577	6,771	6,489	20,837	49,679
平成17年度	10,007	9,558	9,048	28,613	7,428	6,933	6,386	20,747	49,360
平成18年度	9,729	9,558	9,100	28,387	7,282	6,858	6,530	20,670	49,057
平成19年度	10,177	9,259	8,943	28,379	7,511	6,516	6,314	20,341	48,720
平成20年度	9,758	9,733	8,910	28,401	7,159	6,855	6,117	20,131	48,532
平成21年度	9,664	9,752	8,969	28,385	7,134	6,870	6,137	20,141	48,526
平成22年度	9,891	9,871	8,996	28,758	7,344	6,964	6,206	20,514	49,272
平成23年度	9,907	9,725	8,879	28,511	7,240	6,716	6,181	20,137	48,648
平成24年度	9,854	9,870	9,317	29,041	6,945	6,699	6,236	19,880	48,921
平成25年度	9,992	9,637	9,414	29,043	7,088	6,482	6,372	19,942	48,985
平成26年度	9,703	9,666	9,270	28,639	6,918	6,732	6,355	20,005	48,644
平成27年度	9,446	9,447	9,252	28,145	6,757	6,569	6,469	19,795	47,940
平成28年度	9,391	9,273	9,058	27,722	6,655	6,477	6,259	19,391	47,113
平成29年度	8,935	9,183	8,939	27,057	6,651	6,282	6,219	19,152	46,209
平成30年度	8,786	8,566	8,852	26,204	6,526	6,364	6,054	18,944	45,148
令和元年度	8,709	8,486	8,305	25,500	6,489	6,248	6,048	18,785	44,285
令和２年度	8,367	8,507	8,220	25,094	6,314	6,353	6,008	18,675	43,769
令和３年度	8,287	8,488	8,310	25,085	6,441	6,270	6,080	18,791	43,876

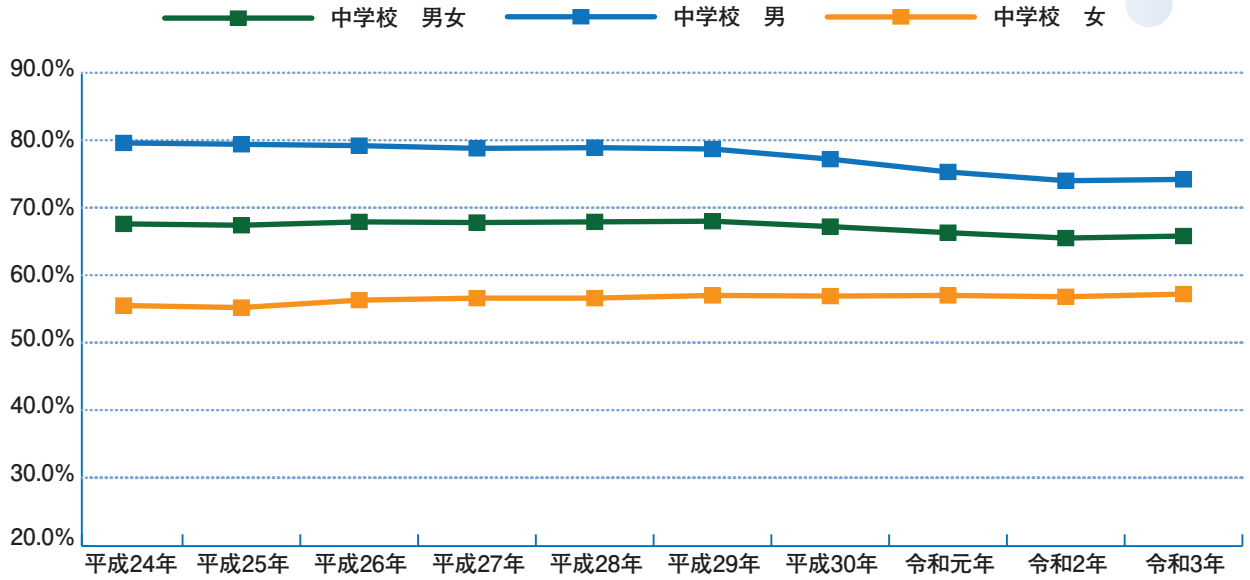
令和3年度 運動部活動状況調査まとめ

令和３年10月12日現在

	在籍生徒数			運動部員数			加入率%			設置部数		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
京丹後市	685	640	1,325	637	484	1,121	93.0	75.6	84.6	34	32	66
与謝地方	470	449	919	448	319	767	95.3	71.0	83.5	27	25	52
丹後地方(12校)	1,155	1,089	2,244	1,085	803	1,888	93.9	73.7	84.1	61	57	118
舞鶴市	1,042	1,047	2,089	873	662	1,535	83.8	63.2	73.5	40	38	78
福知山市	978	970	1,948	867	659	1,526	88.7	67.9	78.3	46	41	87
綾部市	394	377	771	312	224	536	79.2	59.4	69.5	18	18	36
中丹地方(22校)	2,414	2,394	4,808	2,052	1,545	3,597	85.0	64.5	74.8	104	97	201
亀岡市	1,199	1,079	2,278	1,003	701	1,704	83.7	65.0	74.8	47	44	91
南丹･船井	480	434	914	421	294	715	87.7	67.7	78.2	30	25	55
口丹地方(15校)	1,679	1,513	3,192	1,424	995	2,419	84.8	65.8	75.8	77	69	146
乙訓地方	2,051	1,962	4,013	1,732	1,237	2,969	84.4	63.0	74.0	73	58	131
宇治市	2,452	2,283	4,735	1,876	1,475	3,351	76.5	64.6	70.8	76	68	144
城陽･久御山	1,128	1,091	2,219	917	671	1,588	81.3	61.5	71.6	43	40	83
綴喜地方	2,061	1,910	3,971	1,557	1,199	2,756	75.5	62.8	69.4	61	57	118
相楽地方	1,883	1,799	3,682	1,442	1,061	2,503	76.6	59.0	68.0	58	51	109
山城地方(43校)	9,575	9,045	18,620	7,524	5,643	13,167	78.6	62.4	70.7	311	274	585
府内市町(組合)合計	14,823	14,041	28,864	12,085	8,986	21,071	81.5	64.0	73.0	553	497	1,050
府立4校	291	307	598	183	161	344	62.9	52.4	57.5	17	18	35
京都府(96校)	15,114	14,348	29,462	12,268	9,147	21,415	81.2	63.8	72.7	570	515	1,085
京都市(71校)	14,232	13,510	27,742	9,814	7,282	17,096	69.0	53.9	61.6	437	378	815
私学(24校)	4,103	4,641	8,744	2,757	2,168	4,925	67.2	46.7	56.3	129	129	258
国立(2校)	348	339	687	246	194	440	70.7	57.2	64.0	10	9	19
京都府全体(193校)	33,797	32,838	66,635	25,085	18,791	43,876	74.2	57.2	65.8	1,146	1,031	2,177

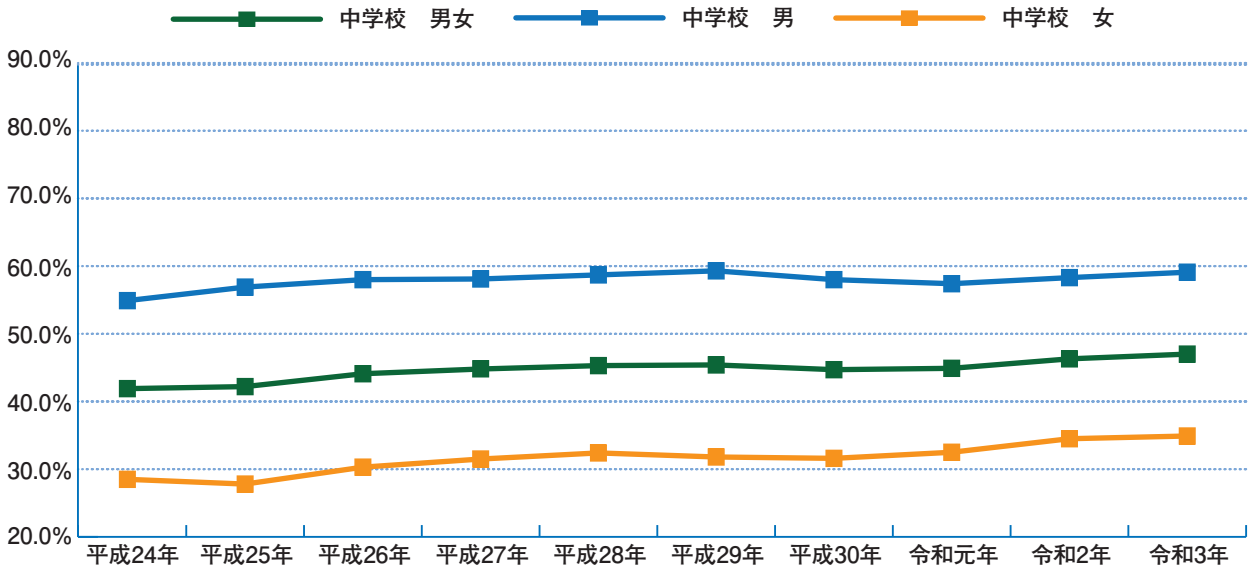
運動部活動加入率（中学校、高校全日制）の年次変化について

中学校　加入率



	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
中学校　男女	67.6%	67.4%	67.9%	67.8%	68.0%	68.0%	67.2%	66.3%	65.5%	65.8%
中学校　男	79.6%	79.4%	79.2%	78.8%	79.0%	78.7%	77.2%	75.3%	74.0%	74.2%
中学校　女	55.5%	55.2%	56.4%	56.6%	56.6%	57.0%	56.9%	57.0%	56.8%	57.2%

高校（全日制）　加入率



	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
高　校　男女	41.9%	42.2%	44.1%	44.8%	45.3%	45.4%	44.7%	44.9%	46.3%	47.0%
高　校　男	54.9%	56.9%	58.0%	58.1%	58.7%	59.3%	58.0%	57.4%	58.3%	59.1%
高　校　女	28.5%	27.8%	30.3%	31.5%	32.4%	31.8%	31.6%	32.5%	34.5%	34.9%

5

高体連統計資料

全国高校総体及びその他の全国大会における京都府選手の出場者数年次推移

※令和３年11月現在
全国高校総体：夏季開催30競技、冬季開催４競技（駅伝＋ラグビー＋スキー＋スケート）　その他の全国大会：１競技（ライフル射撃）
〈出場状況〉

和暦（年度） 西暦（年度）	府立	私立	市立	国立	合計（名）	備考
昭和60年 1985年	101 20.4%	380 76.9%	13 2.6%	0 0.0%	494	
昭和61年 1986年	137 25.8%	375 70.8%	18 3.4%	0 0.0%	530	
昭和62年 1987年	190 32.3%	351 59.7%	46 7.8%	1 0.2%	588	
昭和63年 1988年	201 31.9%	398 63.1%	31 4.9%	1 0.2%	631	●国体京都府開催
平成元年 1989年	264 40.9%	355 55.0%	26 4.0%	1 0.2%	646	●全国高校駅伝に女子を追加
平成2年 1990年	291 43.5%	359 53.7%	19 2.8%	0 0.0%	669	
平成3年 1991年	272 39.9%	390 57.3%	19 2.8%	0 0.0%	681	
平成4年 1992年	308 43.9%	351 50.1%	42 6.0%	0 0.0%	701	
平成5年 1993年	298 42.6%	379 54.2%	22 3.1%	0 0.0%	699	●全国高校総体にアーチェリー追加
平成6年 1994年	318 46.4%	351 51.2%	14 2.0%	2 0.3%	685	
平成7年 1995年	328 47.1%	325 46.6%	43 6.2%	1 0.1%	697	
平成8年 1996年	326 45.1%	345 47.7%	50 6.9%	2 0.3%	723	
平成9年 1997年	535 49.0%	454 41.6%	101 9.3%	1 0.1%	1091	●全国総体京都府開催、全国高校総体になぎなた追加
平成10年 1998年	322 46.9%	300 43.7%	63 9.2%	1 0.1%	686	
平成11年 1999年	304 44.7%	318 46.8%	57 8.4%	1 0.1%	680	
平成12年 2000年	304 42.5%	361 50.5%	50 7.0%	0 0.0%	715	
平成13年 2001年	296 40.8%	393 54.1%	37 5.1%	0 0.0%	726	
平成14年 2002年	311 41.1%	378 49.9%	68 9.0%	0 0.0%	757	
平成15年 2003年	318 39.9%	405 50.9%	73 9.2%	0 0.0%	796	
平成16年 2004年	299 40.5%	418 56.6%	22 3.0%	0 0.0%	739	
平成17年 2005年	316 41.2%	370 48.2%	81 10.6%	0 0.0%	767	
平成18年 2006年	332 41.5%	450 56.3%	18 2.3%	0 0.0%	800	●全国高校総体にカヌー追加
平成19年 2007年	291 39.8%	377 51.5%	62 8.5%	2 0.3%	732	
平成20年 2008年	282 37.7%	441 58.9%	26 3.5%	0 0.0%	749	
平成21年 2009年	373 41.3%	499 55.2%	31 3.4%	1 0.1%	904	●「2009近畿まほろば総体」、駅伝を集計に追加
平成22年 2010年	278 36.1%	446 57.9%	45 5.8%	1 0.1%	770	
平成23年 2011年	246 33.8%	428 58.9%	53 7.3%	0 0.0%	727	
平成24年 2012年	278 37.1%	392 52.3%	79 10.5%	0 0.0%	749	●全国高校総体に女子サッカー追加

和暦(年度) 西暦(年度)	府立	私立	市立	国立	合計(名)	備考
平成25年 2013年	317 39.6%	445 55.6%	38 4.8%	0 0.0%	800	
平成26年 2014年	254 34.4%	461 62.4%	23 3.1%	1 0.1%	739	●全国高校総体に少林寺拳法追加
平成27年 2015年	300 34.2%	488 55.6%	87 9.9%	2 0.2%	877	●「2015君が創る近畿総体」、大会参加校数の統一基準を制定
平成28年 2016年	253 32.6%	468 60.4%	53 6.8%	1 0.1%	775	
平成29年 2017年	278 35.9%	453 58.5%	44 5.7%	0 0.0%	775	●全国高校総体に女子レスリング追加
平成30年 2018年	271 35.7%	460 60.6%	28 3.7%	0 0.0%	759	●全国高校総体に女子自転車競技追加
(平成31年)令和元年 2019年	297 38.0%	463 59.3%	21 2.7%	0 0.0%	781	
令和2年 2020年	3 3.9%	73 96.1%	0 0.0%	0 0.0%	76	●新型コロナウイルス感染拡大防止のため夏季中止、冬季のみ開催
令和3年 2021年	289	318 50.2%	24 3.8%	2 0.3%	633	●全国高校総体に女子ウエイトリフティング追加 ※令和3年11月時点につき冬季含めず

全国高校総体及びその他の全国大会における入賞数年次推移

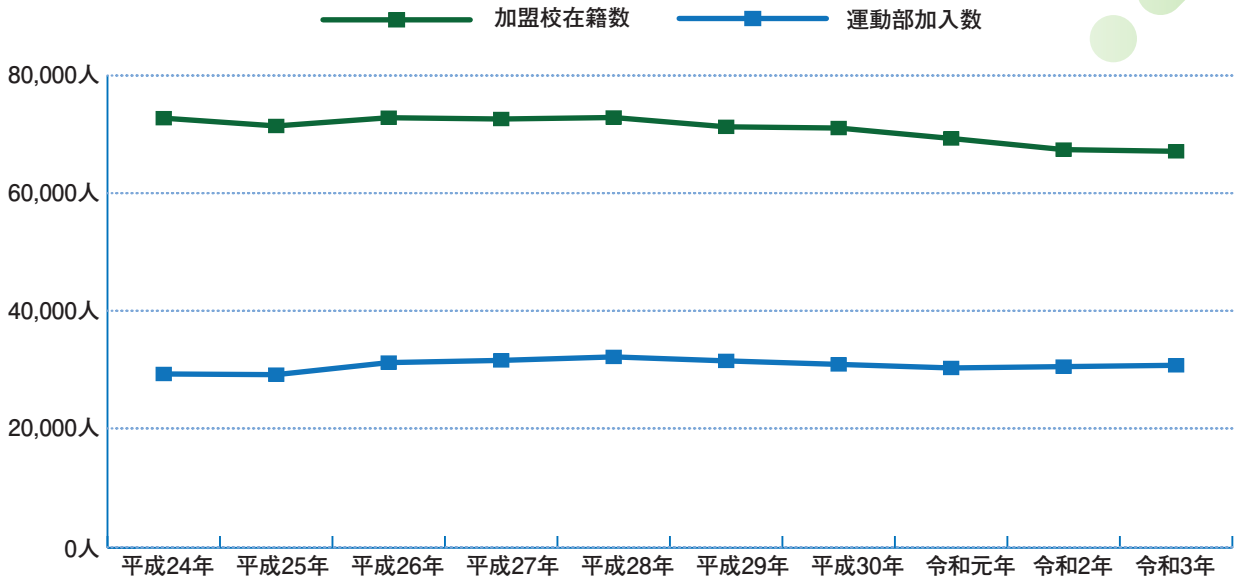
※令和３年11月現在
全国高校総体：夏季開催30競技、冬季開催４競技（駅伝＋ラグビー＋スキー＋スケート）その他の全国大会：１競技（ライフル射撃）

〈入賞状況〉　　（　）内は府立高校数

和暦(年度) 西暦(年度)		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	合計	備考
昭和60年 1985年	団体	1 ( )	1 ( )	4 ( )	0 ( )	5 (1)	1 ( )	0 ( )	0 ( )	12 (1) 43	
	個人	5 (2)	3 ( )	4 ( )	1 ( )	7 ( )	4 (1)	4 (1)	3 ( )	31 (4) (5)	
昭和61年 1986年	団体	3 ( )	1 ( )	6 (1)	1 ( )	4 (1)	0 ( )	1 (1)	0 ( )	16 (3) 56	
	個人	8 (1)	5 ( )	3 (1)	5 (2)	8 (1)	4 ( )	5 ( )	2 ( )	40 (5) (8)	
昭和62年 1987年	団体	0 ( )	7 (2)	1 (1)	3 (2)	6 (1)	1 ( )	2 ( )	0 ( )	20 (6) 50	
	個人	4 (3)	3 (2)	8 (2)	2 ( )	7 ( )	4 ( )	1 ( )	1 ( )	30 (7) (13)	
昭和63年 1988年	団体	3 (2)	6 (2)	1 ( )	4 (1)	4 (2)	1 ( )	1 ( )	0 ( )	20 (7) 87	●国体京都府開催
	個人	7 (2)	10 (4)	5 (1)	8 (3)	22 (2)	8 (4)	4 (1)	3 (2)	67 (19) (26)	
平成元年 1989年	団体	1 ( )	5 (1)	6 (4)	0 ( )	5 (1)	0 ( )	1 (1)	0 ( )	18 (7) 75	●全国高校駅伝に女子を追加
	個人	13 (4)	8 (1)	8 (3)	3 ( )	14 (2)	4 (1)	5 (2)	2 (1)	57 (13) (20)	
平成2年 1990年	団体	3 ( )	3 ( )	1 (1)	2 ( )	5 (2)	0 ( )	0 ( )	1 (1)	15 (4) 83	
	個人	3 (1)	11 (4)	6 (2)	7 (2)	12 (3)	9 (1)	10 (2)	10 (4)	68 (19) (23)	
平成3年 1991年	団体	2 (1)	1 ( )	4 ( )	2 (1)	3 (1)	2 (2)	2 (2)	2 (1)	18 (8) 68	
	個人	6 (4)	8 (2)	5 ( )	3 ( )	11 (3)	8 (3)	5 (3)	4 (4)	50 (19) (27)	
平成4年 1992年	団体	2 ( )	2 (1)	4 (1)	1 ( )	4 (3)	0 ( )	0 ( )	1 ( )	14 (5) 65	
	個人	4 ( )	7 (1)	11 (2)	7 (3)	6 (1)	4 (1)	8 (5)	4 (1)	51 (14) (19)	
平成5年 1993年	団体	0 ( )	4 (2)	3 ( )	7 (3)	2 (1)	1 (1)	2 (1)	0 ( )	19 (8) 72	●全国高校総体にアーチェリー追加
	個人	7 (3)	10 (3)	10 (5)	6 (4)	10 (2)	3 (2)	2 (1)	5 (2)	53 (22) (30)	
平成6年 1994年	団体	1 (1)	0 ( )	6 (2)	0 ( )	4 (2)	0 ( )	0 ( )	1 ( )	12 (5) 49	
	個人	2 (1)	4 (1)	4 (2)	4 (2)	9 (1)	5 (2)	4 (2)	5 (2)	37 (13) (18)	
平成7年 1995年	団体	2 (1)	2 (1)	2 (1)	1 ( )	8 (2)	2 (1)	1 ( )	2 ( )	20 (6) 60	
	個人	3 (2)	8 (3)	7 (4)	2 (2)	6 (3)	8 (4)	2 ( )	4 (3)	40 (21) (27)	
平成8年 1996年	団体	2 (1)	1 ( )	4 (1)	2 ( )	9 (3)	0 ( )	1 (1)	0 ( )	19 (6) 54	
	個人	5 (3)	2 (1)	4	4 (2)	7 (3)	6 (4)	2 (1)	5 (3)	35 (17) (23)	
平成9年 1997年	団体	3 (1)	6 ( )	3 (2)	2 (2)	9 (5)	4 (1)	1 (1)	0 ( )	28 (12) 135	●全国総体京都府開催、全国高校総体になぎなた追加
	個人	15 (3)	17 (5)	18 (6)	4 (2)	22 (7)	10 (7)	11 (4)	10 (6)	107 (40) (52)	

和暦(年度) 西暦(年度)		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	合計	備考
平成10年 1998年	団体	2 (2)	1 ( )	5 (1)	2 ( )	4 (1)	2 (1)	1 ( )	0 ( )	17 (5) 85	
	個人	7 (1)	9 (4)	9 (5)	11 (7)	12 (4)	3 (1)	6 (5)	11 (5)	68 (32) (37)	
平成11年 1999年	団体	2 (1)	6 (2)	1 (1)	0 ( )	8 (3)	3 ( )	1 (1)	1 ( )	22 (8) 92	
	個人	5 (1)	11 (1)	11 (2)	4 (1)	12 (4)	10 (4)	7 ( )	10 (3)	70 (16) (24)	
平成12年 2000年	団体	3 ( )	4 (1)	7 (2)	2 ( )	2 (1)	0 ( )	1 ( )	0 ( )	19 (4) 79	
	個人	11 (3)	12 (5)	8 ( )	7 (1)	9 (4)	3 (1)	5 (5)	5 (1)	60 (20) (24)	
平成13年 2001年	団体	5 (1)	3 ( )	4 (1)	2 ( )	3 (3)	0 ( )	1 ( )	1 ( )	19 (5) 96	
	個人	16 (3)	10 (2)	11 (2)	5 (2)	12 (2)	10 (6)	5 (1)	8 (3)	77 (21) (26)	
平成14年 2002年	団体	2 (2)	3 (2)	5 (1)	3 (1)	7 (3)	2 ( )	0 ( )	0 ( )	22 (9) 125	
	個人	14 (10)	11 (6)	13 (11)	13 (8)	18 (9)	12 (9)	9 (7)	13 (5)	103 (65) (74)	
平成15年 2003年	団体	1 (0)	3 (2)	7 (2)	2 (2)	9 (3)	2 (1)	2 (2)	0 ( )	26 (12) 113	
	個人	10 (7)	11 (9)	15 (11)	7 (5)	18 (4)	4 (2)	11 (6)	11 (8)	87 (52) (64)	
平成16年 2004年	団体	5 (3)	4 (1)	7 (1)	2 (1)	3 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	22 (7) 121	
	個人	19 (13)	11 (7)	13 (10)	9 (4)	16 (9)	10 (6)	13 (9)	8 (3)	99 (61) (68)	
平成17年 2005年	団体	4 (3)	2 (2)	3 (1)	2 (1)	11 (5)	3 (1)	1 (1)	0 (0)	26 (14) 134	
	個人	15 (12)	19 (12)	15 (4)	14 (11)	21 (12)	8 (6)	9 (5)	7 (0)	108 (62) (76)	
平成18年 2006年	団体	3 (3)	5 (2)	5 (1)	1 (0)	9 (4)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	24 (10) 123	●全国高校総体にカヌー追加
	個人	12 (6)	17 (12)	10 (8)	10 (9)	16 (10)	14 (8)	6 (3)	14 (8)	99 (64) (74)	
平成19年 2007年	団体	6 (2)	1 (0)	5 (2)	3 (1)	7 (3)	1 (0)	2 (1)	1 (1)	26 (10) 106	
	個人	14 (9)	7 (2)	6 (2)	9 (8)	13 (4)	8 (5)	11 (6)	12 (5)	80 (41) (51)	
平成20年 2008年	団体	3 (1)	3 (1)	9 (5)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	3 (0)	2 (1)	23 (8) 123	
	個人	13 (7)	14 (7)	11 (6)	9 (3)	19 (7)	16 (10)	11 (7)	7 (4)	100 (51) (59)	
平成21年 2009年	団体	6 (3)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	13 (5)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	23 (9) 123	●「2009近畿まほろば総体」、駅伝を集計に追加
	個人	17 (9)	14 (7)	16 (7)	14 (10)	17 (11)	4 (1)	7 (6)	11 (8)	100 (59) (68)	
平成22年 2010年	団体	1 (1)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	8 (1)	1 (0)	1 (0)	2 (1)	18 (6) 97	
	個人	5 (1)	16 (11)	13 (7)	8 (7)	15 (10)	5 (2)	10 (6)	7 (4)	79 (48) (54)	
平成23年 2011年	団体	4 (1)	1 (1)	5 (2)	0 (0)	6 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	21 (4) 115	
	個人	12 (7)	12 (9)	12 (6)	18 (10)	15 (4)	6 (5)	13 (8)	6 (2)	94 (51) (55)	
平成24年 2012年	団体	3 (1)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	16 (1) 111	●全国高校総体に女子サッカー追加
	個人	9 (6)	17 (13)	11 (5)	11 (7)	12 (7)	12 (10)	11 (7)	12 (9)	95 (64) (65)	
平成25年 2013年	団体	1 (0)	1 (0)	6 (4)	1 (0)	8 (2)	2 (1)	2 (2)	3 (0)	24 (9) 112	
	個人	20 (11)	12 (7)	8 (2)	14 (6)	11 (5)	6 (3)	9 (6)	8 (8)	88 (48) (57)	
平成26年 2014年	団体	2 (2)	5 (1)	5 (1)	1 (0)	5 (1)	2 (1)	2 (2)	1 (0)	23 (8) 123	●全国高校総体に少林寺拳法追加
	個人	16 (9)	16 (12)	15 (9)	12 (7)	18 (9)	7 (4)	10 (5)	6 (3)	100 (58) (66)	
平成27年 2015年	団体	2 (1)	2 (0)	6 (1)	2 (1)	7 (2)	2 (1)	1 (0)	1 (1)	23 (7) 107	●「2015君が創る近畿総体」、大会参加校数の統一基準を制定
	個人	9 (4)	8 (4)	19 (8)	5 (4)	16 (11)	13 (8)	6 (3)	8 (4)	84 (46) (53)	
平成28年 2016年	団体	3 (1)	1 (0)	4 (1)	0 (0)	8 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	18 (4) 96	
	個人	8 (5)	10 (7)	15 (9)	10 (6)	18 (10)	6 (5)	7 (5)	4 (3)	78 (50) (54)	
平成29年 2017年	団体	3 (1)	0 (0)	1 (1)	2 (0)	5 (1)	1 (0)	2 (1)	1 (1)	15 (5) 101	●全国高校総体に女子レスリング追加
	個人	12 (8)	14 (8)	10 (9)	9 (3)	15 (6)	11 (7)	8 (6)	7 (6)	86 (53) (58)	
平成30年 2018年	団体	0 (0)	6 (0)	6 (4)	4 (0)	9 (4)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	26 (8) 103	●全国高校総体に女子自転車競技追加
	個人	15 (11)	16 (12)	5 (1)	5 (2)	11 (4)	15 (7)	5 (0)	5 (1)	77 (38) (46)	
(平成31年)令和元年 2019年	団体	2 (0)	3 (1)	5 (0)	1 (0)	9 (3)	2 (0)	3 (2)	2 (2)	27 (8) 107	
	個人	12 (6)	11 (9)	12 (6)	7 (2)	17 (8)	8 (5)	8 (3)	5 (4)	80 (43) (51)	
令和2年 2020年	団体	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0) 4	●新型コロナウイルス感染拡大防止のため夏季中止、冬季のみ開催
	個人	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0) (0)	
令和3年 2021年	団体	4 (2)	1 (1)	7 (1)	1 (1)	8 (4)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	23 (9) 107	●全国高校総体に女子ウエイトリフティング追加 ※令和3年11月時点につき冬季含めず
	個人	26 (20)	10 (7)	7 (3)	8 (3)	16 (6)	4 (1)	9 (6)	4 (2)	84 (48) (57)	

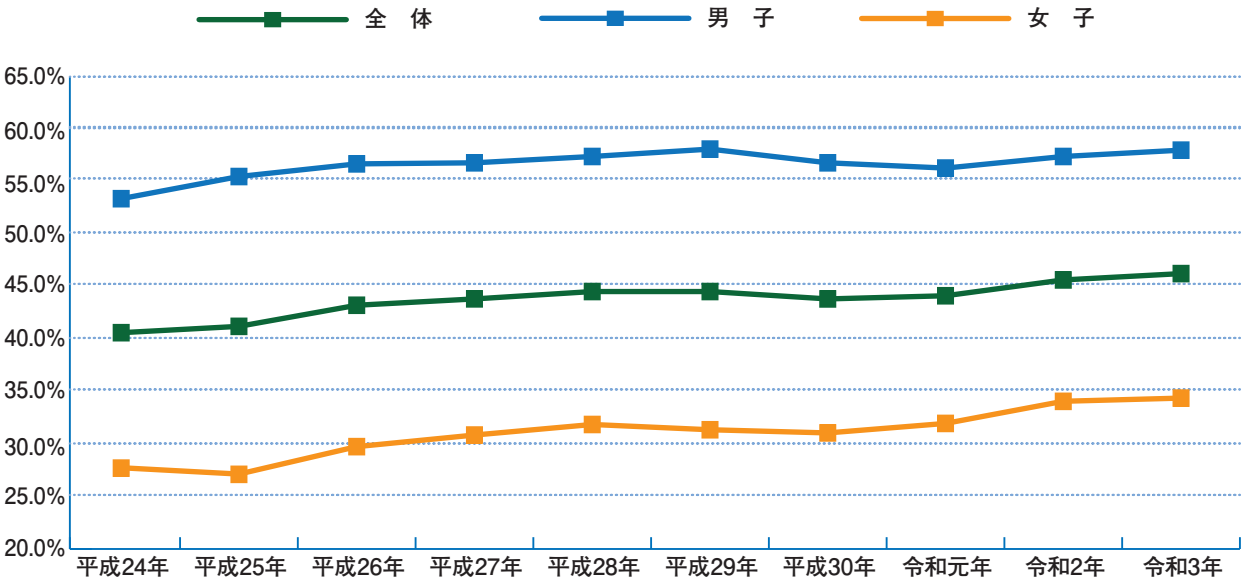
平成24～令和3年度 京都府高等学校体育連盟（全・定通・特別支援）加盟校在籍数及び運動部加入数推移



※マネージャーを除く　（人数）

年　度	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
加盟校在籍数	73,106	71,782	73,180	72,964	73,216	71,633	71,428	69,655	67,758	67,471
運動部加入数	29,612	29,495	31,545	31,921	32,515	31,837	31,240	30,635	30,862	31,086

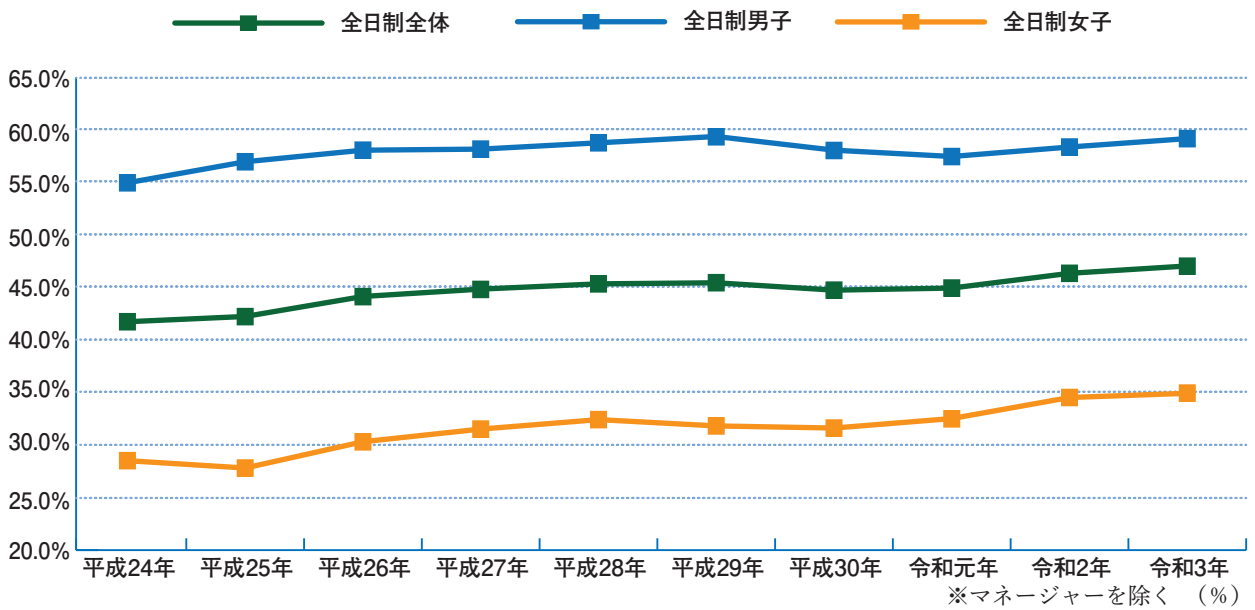
平成24～令和3年度 京都府高等学校体育連盟（全・定通・特別支援）運動部加入率推移



※マネージャーを除く　（%）

年　度	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
全　体	40.5	41.1	43.1	43.7	44.4	44.4	43.7	44.0	45.5	46.1
男　子	53.2	55.3	56.5	56.6	57.2	57.9	56.6	56.1	57.2	57.8
女　子	27.7	27.1	29.7	30.8	31.8	31.3	31.0	31.9	34.0	34.3

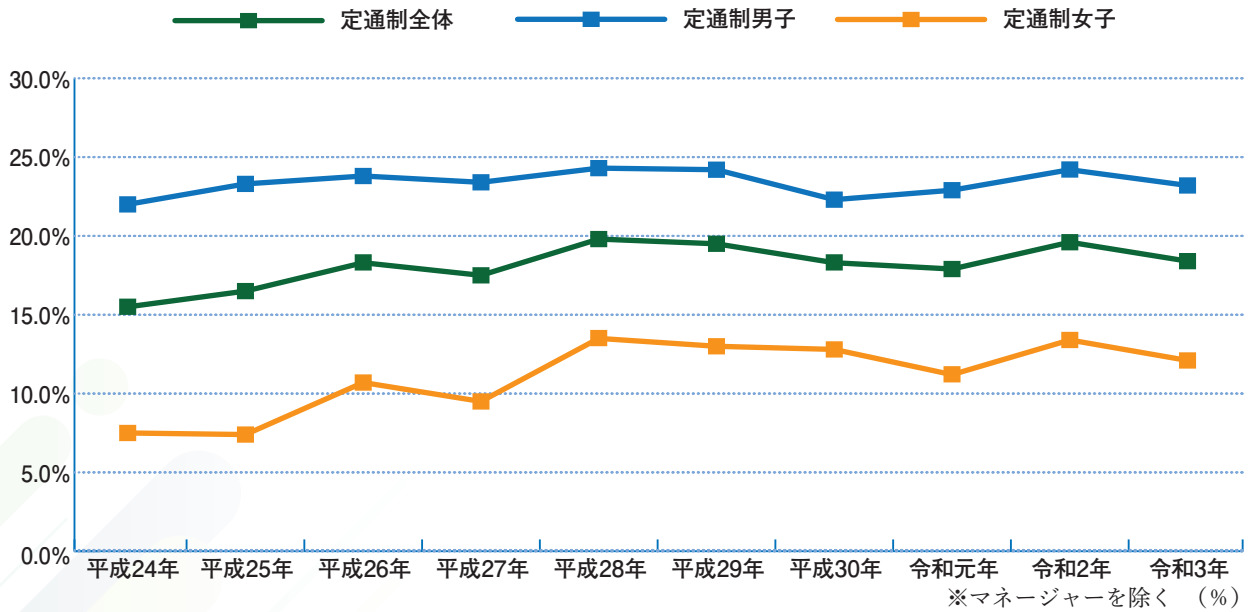
平成24～令和3年度 全日制課程（特別支援含む）運動部加入率推移



※マネージャーを除く　（%）

年　度	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
全日制全体	41.7	42.2	44.1	44.8	45.3	45.4	44.7	44.9	46.3	47.0
全日制男子	54.9	56.9	58.0	58.1	58.7	59.3	58.0	57.4	58.3	59.1
全日制女子	28.5	27.8	30.3	31.5	32.4	31.8	31.6	32.5	34.5	34.9

平成24～令和3年度 定時制通信制課程 運動部加入率推移



※マネージャーを除く　（%）

年　度	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
定通制全体	15.5	16.5	18.3	17.5	19.8	19.5	18.3	17.9	19.6	18.4
定通制男子	22.0	23.3	23.8	23.4	24.3	24.2	22.3	22.9	24.2	23.2
定通制女子	7.5	7.4	10.7	9.5	13.5	13.0	12.8	11.2	13.4	12.1

府高体連全体(全日制課程・定時制通信制課程)運動部活動加入率

年度	全体			男子			女子		
	在籍数	加入数	加入率	在籍数	加入数	加入率	在籍数	加入数	加入率
昭和55年	93,764	30,839	32.9	45,300	17,948	39.6	48,464	12,891	26.6
昭和56年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和57年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和58年	94,821	33,680	35.5	46,135	20,425	44.3	48,686	13,255	27.2
昭和59年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和60年	107,448	37,850	35.2	53,400	22,690	42.5	54,048	15,160	28.0
昭和61年	112,714	37,925	33.6	56,537	23,060	40.8	56,177	14,865	26.5
昭和62年	116,341	40,336	34.7	58,642	24,637	42.0	57,707	15,699	27.2
昭和63年	121,458	39,520	32.5	61,374	24,752	40.3	60,084	14,768	24.6
平成 1 年	125,201	40,242	32.1	63,001	24,740	39.3	62,200	15,502	24.9
平成 2 年	124,805	41,237	33.0	62,720	25,346	40.4	62,085	15,891	25.6
平成 3 年	119,085	40,057	33.6	59,502	24,379	41.0	59,583	15,678	26.3
平成 4 年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成 5 年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成 6 年	107,173	39,200	36.6	54,088	23,463	43.4	53,085	15,737	29.6
平成 7 年	102,248	35,989	35.2	51,550	23,005	44.6	50,698	12,984	25.6
平成 8 年	98,841	33,069	33.5	49,638	20,594	44.3	49,158	12,475	25.8
平成 9 年	93,338	30,401	32.6	46,531	19,289	41.6	46,807	11,112	23.7
平成10年	91,681	29,351	32.0	45,741	18,633	40.7	45,940	10,718	23.3
平成11年	90,045	28,210	31.3	44,876	18,048	40.2	45,169	10,162	22.5
平成12年	90,202	29,144	32.3	45,110	18,597	41.2	45,092	10,547	23.4
平成13年	87,840	29,164	33.2	44,041	18,859	42.8	43,799	10,305	23.5
平成14年	85,176	28,639	33.6	42,829	18,996	44.4	42,347	9,643	22.8
平成15年	81,862	29,164	35.6	41,252	19,507	47.3	40,610	9,657	23.8
平成16年	79,482	29,906	37.6	40,060	19,664	49.1	39,422	10,242	26.0
平成17年	77,222	29,647	38.4	38,957	19,732	50.7	38,265	9,915	25.9
平成18年	74,995	30,298	40.4	37,714	19,687	52.2	37,281	10,611	28.5
平成19年	72,623	29,603	40.8	36,380	18,985	52.2	36,243	10,618	29.3
平成20年	73,498	30,195	41.1	36,930	19,158	51.9	36,568	11,037	30.2
平成21年	71,521	29,627	41.4	35,789	19,115	53.4	35,732	10,512	29.4
平成22年	72,791	29,551	40.6	36,323	19,312	53.2	36,468	10,239	28.1
平成23年	72,649	28,783	39.6	36,378	18,941	52.1	36,271	9,842	27.1
平成24年	73,106	29,612	40.5	36,641	19,509	53.2	36,465	10,103	27.7
平成25年	71,782	29,495	41.1	35,719	19,736	55.3	36,063	9,759	27.1
平成26年	73,180	31,545	43.1	36,627	20,695	56.5	36,553	10,850	29.7
平成27年	72,964	31,921	43.7	36,626	20,729	56.6	36,338	11,192	30.8
平成28年	73,216	32,515	44.4	36,383	20,810	57.2	36,833	11,705	31.8
平成29年	71,633	31,837	44.4	35,479	20,529	57.9	36,154	11,308	31.3
平成30年	71,428	31,240	43.7	35,587	20,129	56.6	35,841	11,111	31.0
令和元年	69,655	30,635	44.0	34,795	19,512	56.1	34,860	11,123	31.9
令和 2 年	67,758	30,862	45.5	33,838	19,340	57.2	33,920	11,522	34.0
令和 3 年	67,471	31,086	46.1	33,727	19,506	57.8	33,744	11,580	34.3

府高体連全日制課程 運動部活動加入率

年度	全体			男子			女子		
	在籍数	加入数	加入率	在籍数	加入数	加入率	在籍数	加入数	加入率
昭和55年	88,895	28,887	32.5	42,108	16,492	39.2	46,787	12,395	26.5
昭和56年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和57年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和58年	90,744	31,860	35.1	43,275	19,096	44.1	47,469	12,764	26.9
昭和59年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和60年	102,994	36,287	35.2	50,077	21,585	43.1	52,917	14,702	27.8
昭和61年	107,236	36,112	33.7	52,830	21,779	41.2	54,406	14,333	26.3
昭和62年	111,697	38,183	34.2	55,417	23,144	41.8	56,288	15,039	26.7
昭和63年	115,822	37,675	32.5	57,773	23,500	40.7	58,049	14,175	24.4
平成 1 年	119,469	38,402	32.1	59,412	23,443	39.5	60,057	14,959	24.9
平成 2 年	119,388	39,704	33.3	59,231	24,173	40.8	60,157	15,531	25.8
平成 3 年	115,214	38,795	33.7	56,933	23,410	41.1	58,281	15,385	26.4
平成 4 年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成 5 年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成 6 年	102,817	37,755	36.7	51,257	22,363	43.6	51,560	15,392	29.9
平成 7 年	98,217	33,810	34.4	48,933	21,124	43.2	49,284	12,686	25.7
平成 8 年	94,686	31,722	33.5	47,060	19,604	41.6	47,626	12,118	25.4
平成 9 年	89,734	29,243	32.6	44,241	18,414	41.6	45,493	10,829	23.8
平成10年	87,679	28,318	32.3	43,220	17,852	41.3	44,459	10,466	23.5
平成11年	85,737	27,212	31.7	42,242	17,306	41.0	43,495	9,906	22.8
平成12年	85,847	28,042	32.7	42,383	17,726	41.8	43,464	10,316	23.7
平成13年	83,094	28,032	33.7	41,133	18,026	43.8	41,961	10,006	23.8
平成14年	80,407	27,589	34.3	39,968	18,229	45.6	40,439	9,360	23.1
平成15年	77,276	28,027	36.3	38,504	18,640	48.4	38,772	9,387	24.2
平成16年	75,355	28,745	38.1	37,613	18,802	50.0	37,742	9,943	26.3
平成17年	73,342	28,477	38.8	36,631	18,857	51.5	36,711	9,620	26.2
平成18年	71,617	29,336	41.0	35,666	18,957	53.2	35,951	10,379	28.9
平成19年	69,471	28,697	41.3	34,510	18,296	53.0	34,961	10,401	29.8
平成20年	70,181	29,356	41.8	35,116	18,545	52.8	35,065	10,811	30.8
平成21年	68,345	28,819	42.2	34,019	18,526	54.5	34,326	10,293	30.0
平成22年	69,274	28,725	41.5	34,358	18,742	54.5	34,916	9,983	28.6
平成23年	69,192	28,165	40.7	34,416	18,477	53.7	34,776	9,688	27.9
平成24年	69,830	29,103	41.7	34,822	19,109	54.9	35,008	9,994	28.5
平成25年	68,724	28,991	42.1	33,971	19,329	56.1	34,753	9,662	27.8
平成26年	70,465	31,049	44.1	35,055	20,321	58.0	35,410	10,728	30.3
平成27年	70,173	31,432	44.8	35,018	20,352	58.1	35,155	11,080	31.5
平成28年	70,536	31,985	45.3	34,833	20,433	58.7	35,703	11,552	32.4
平成29年	69,053	31,335	45.4	33,985	20,168	59.3	35,068	11,167	31.8
平成30年	68,939	30,785	44.7	34,151	19,809	58.0	34,788	10,976	31.6
令和元年	67,383	30,229	44.9	33,505	19,216	57.4	33,878	11,013	32.5
令和 2 年	65,786	30,476	46.3	32,715	19,068	58.3	33,071	11,408	34.5
令和 3 年	65,326	30,692	47.0	32,514	19,225	59.1	32,812	11,467	34.9

府高体連定時制通信制課程 運動部活動加入率

年度	全体			男子			女子		
	在籍数	加入数	加入率	在籍数	加入数	加入率	在籍数	加入数	加入率
昭和55年	4,869	1,952	40.0	3,192	1,456	45.6	1,677	496	29.5
昭和56年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和57年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和58年	4,077	1,820	44.6	2,860	1,329	46.5	1,217	491	40.4
昭和59年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和60年	4,454	1,563	35.1	3,323	1,105	33.3	1,131	458	40.5
昭和61年	5,478	1,913	33.1	3,707	1,271	34.6	1,771	532	30.0
昭和62年	4,644	2,153	46.4	3,225	1,493	46.3	1,419	660	46.5
昭和63年	5,636	1,845	32.7	3,601	1,252	34.8	2,035	593	29.1
平成 1 年	5,732	1,840	32.1	3,589	1,297	36.1	2,143	543	25.3
平成 2 年	5,417	1,533	28.3	3,489	1,173	33.6	1,928	360	18.7
平成 3 年	3,870	1,262	32.6	2,568	969	37.7	1,320	293	22.5
平成 4 年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成 5 年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成 6 年	4,356	1,445	33.2	2,831	1,100	38.9	1,525	345	22.6
平成 7 年	4,031	2,179	54.0	2,617	1,881	41.0	1,414	298	21.0
平成 8 年	4,115	1,347	32.4	2,623	990	37.0	1,532	357	23.0
平成 9 年	3,604	1,158	32.1	2,290	875	38.2	1,314	283	21.5
平成10年	4,002	1,033	25.8	2,521	781	31.0	1,481	252	17.0
平成11年	4,308	998	23.2	2,364	742	28.2	1,674	256	15.3
平成12年	4,355	1,102	25.3	2,727	871	31.9	1,628	231	14.2
平成13年	4,746	1,132	23.9	2,908	833	28.6	1,838	299	16.3
平成14年	4,769	1,050	22.0	2,861	767	26.8	1,908	283	14.8
平成15年	4,586	1,131	24.8	2,478	867	31.6	1,838	270	14.7
平成16年	4,127	1,161	28.1	2,447	862	35.2	1,680	299	17.8
平成17年	3,880	1,170	30.2	2,326	875	37.6	1,554	295	19.0
平成18年	3,378	962	28.5	2,048	730	35.6	1,330	232	17.4
平成19年	3,152	906	28.7	1,870	689	36.8	1,282	217	16.9
平成20年	3,317	839	25.3	1,814	613	33.8	1,503	226	15.0
平成21年	3,176	808	25.4	1,770	589	33.3	1,406	219	15.6
平成22年	3,517	826	23.5	1,965	570	29.0	1,552	256	16.5
平成23年	3,457	618	17.9	1,962	464	23.6	1,495	154	10.3
平成24年	3,276	509	15.5	1,819	400	22.0	1,457	109	7.5
平成25年	3,058	504	16.5	1,748	407	23.3	1,310	97	7.4
平成26年	2,715	496	18.3	1,572	374	23.8	1,143	122	10.7
平成27年	2,791	489	17.5	1,608	377	23.4	1,183	112	9.5
平成28年	2,680	530	19.8	1,550	377	24.3	1,130	153	13.5
平成29年	2,580	502	19.5	1,494	361	24.2	1,086	141	13.0
平成30年	2,489	455	18.3	1,436	320	22.3	1,053	135	12.8
令和元年	2,272	406	17.9	1,290	296	22.9	982	110	11.2
令和 2 年	1,972	386	19.6	1,123	272	24.2	849	114	13.4
令和 3 年	2,145	394	18.4	1,213	281	23.2	932	113	12.1

運動部活動指導者研修資料

発　行／令和４年１月

発行者／京都府中学校体育連盟
京都府高等学校体育連盟